



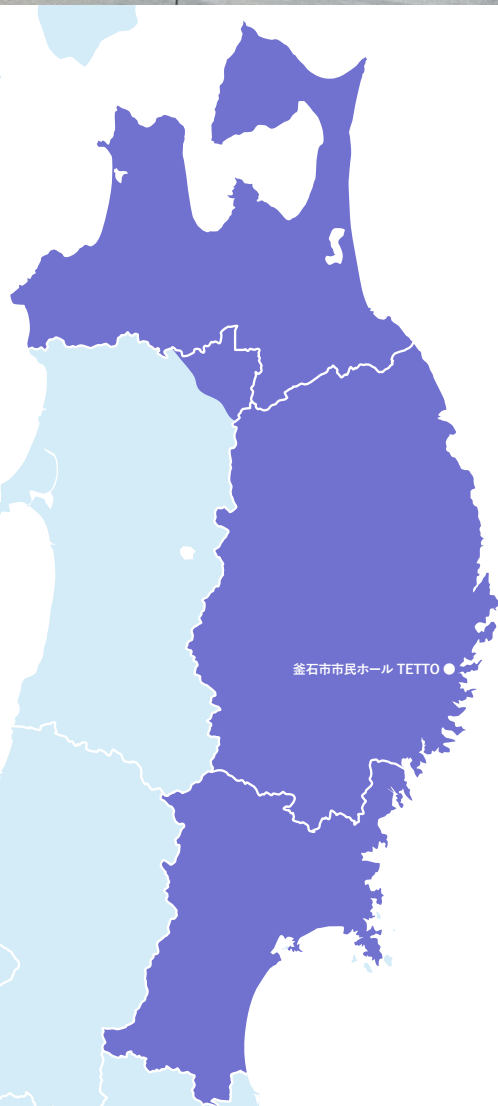
発行日 2025年12月2日 発行者 郷土芸能じぶんち

三陸の豊富な郷土芸能や海外からの招聘団体を見る「鑑賞型」と参加者が体を動かして体験する「体験型」を主軸に展開するプログラムの数々。

ダンサーや現代アーティスト、郷土芸能の担い手、さらに観客として訪れた一般の人たち。そんな多種多様な人たちが、この芸術祭の間は誰でも当事者となって芸能を堪能します。

三陸国際芸術祭が掲げる「習いあう交流」。あまり経験したことがない、ちょっと踏み込んだ芸能の試み、とても楽しんでまいりました！

たくさんの郷土芸能が存在する三陸沿岸地域。東日本大震災後は、様々な復興支援プロジェクトが行われました。その中で東北の郷土芸能や文化を習いに行く「習いに行くぜー東北へ」という画期的な企てが始まり、そこから2024年に三陸国際芸術祭がスタートしました。



さんりくーちほう「三陸地方」宮城県、岩手県、青森県の3県にまたがる三陸海岸と、その内陸部の北上高地を含めた地域。三陸とは陸前国、陸中国、陸奥国の3国の総称。

(コトバンク、ブリタニカ国際大百科事典小項目事典)

#### 釜石プログラム 出演団体

錦町虎舞(岩手県釜石市)／鵜鳥神楽(岩手県普代村)／金澤神楽(岩手県大槌町)／大宮神楽(岩手県田野畑村)／岩手大学民俗芸能サークルばっけ(岩手県盛岡市)／なもみ太鼓(岩手県野田村)／田代盆踊(青森県階上町)／八太郎おしまこ(青森県八戸市)／瀧澤鶏舞(岩手県洋野町)／救済念仏剣舞(岩手県岩手町)／門中組虎舞(岩手県大船渡市)／行山流高瀬鹿踊(岩手県住田町)／鶴住居虎舞(岩手県釜石市)／小川鹿踊(岩手県釜石市)／花輪鹿子踊り(岩手県宮古市)／八幡大神楽(岩手県山田町)／他



行ってみよう！

# サンフェス



2025年のサンフェスは岩手県金石市での開催。会場は、金石駅から徒歩圏内にある「TELLO」屋内ホールと半屋外のスペースを使って複数のプログラムが行われました。

## 1日目

初日は開幕虎舞として、地元金石の「錦町虎舞」の公演そして「夜の神楽宿」として、2つの山伏神楽団体の公演がありました。

開幕に相応しい力強い虎舞。三陸沿岸部の虎舞は、前知識なく見てもお囃子に海の香りを感じる。スクラムを組んで威勢よく掛け声をかけるヤンチャな若者たちに、初っぱなから最高！来てよかった……とじわじわ感動しました。

「夜の神楽宿」では、普代村の「鶴鳥神楽」と大槌町の「金澤神楽」の公演。

演舞後、各団体の若き担い手によるクロストークも行われ、継承するうえでの苦労や工夫についてのお話も。鶴鳥神楽は53演目（！）あるそうですが、少数精鋭での伝承活動と沿岸部を廻る神楽巡行なども行っているとの事でした。

虎舞・神楽それぞれの公演を見た後は、観客も一緒に体験できるコーナーがあり、団体の方から直々に解説してもらえたり交流も出来て賛沢です！初日は3時間ほどのプログラムながらも内容ぎっしり満足度がすごい。

自治体が主催する郷土芸能祭や、保存・伝承のための公演とは違った雰囲気があるサンフェスにはあります。様々な地域の団体が出演するけれど、広告代理店が仕掛ける祭りみたいにショーケース的な見せ方をするでもなく、芸能の楽しい部分を存分に楽しみながら学びもあり、さらに人間単位での営みというか、人と人の交わり合いを大切に作る雰囲気があるように感じられました。初めての場所で初めての組み合わせなのに、小さな村の祭りのような一体感があるのが不思議です。



錦町虎舞



金澤神楽



鶴鳥神楽



救済念仏剣舞



田代盆踊



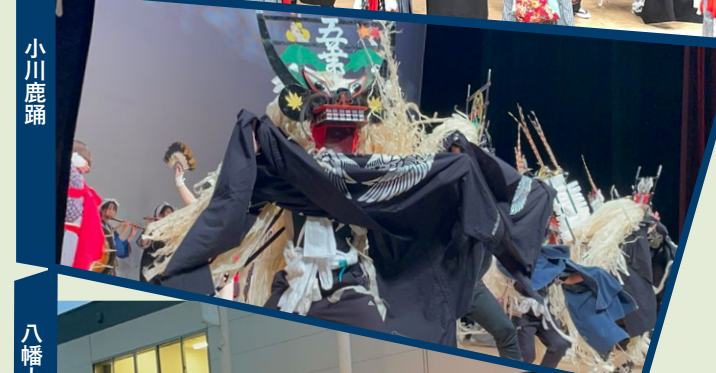
東北の百姓一揆と芸能  
茶谷十六先生（右）



三陸未来芸能祭



小川鹿踊



八幡大神楽



タイルアート



装束の展示



花輪鹿子踊り



## 2023

2日目はユースミーティングから。朝9時という早い時間にもかかわらず多くの来場者で賑わい、観客も交えたトーク中心のプログラムからスタートしました。その後は、芸能鑑賞と体験を交互に味わえるプログラムが続きます。

「東北の百姓一揆と芸能」では、茶谷十六先生が登場し、岩手の芸能の歴史的背景について解説されました。ただかっこいい、楽しいだけでなく、郷土芸能の意味とは何なのかに触れるお話でした。「歌好き、踊り好きが何となく集まって何とな

く踊るのではない。岩手の芸能は、他の地域の芸能のあり方とは違う。」とおっしゃっていたのが印象的でした。

「三陸未来芸能祭」では大船渡の虎舞と釜石の虎舞が会場たり、太鼓踊り系（行山流）と幕踊り系のシシが同時に演舞したりなど他ではなかなか見られないような演出も。

私は初めて見る芸能が多かったことや、初めてお会いした方々と話したりなどで、情報が多すぎて途中で頭がパンクしてしまいました…ひとつひとつの芸能をじっくり味わって見たい気持ちもあるけれど、サン

フェスではこのカオスに巻き込まれながら過ごすのもひとつの楽しみ方かもしれません！最後は2日間のラストにふさわしい、複数の出演団体が同時に演舞を行う祝祭空間。

雑感として、サンフェスに来ているのは能動的な人が多い印象でした。芸能を見たり体験して楽しみたい、そしてそこから何かを学びたい。ここで得た事を、各自が持ち帰りそれぞれの場所で種を土に蒔くような、それぞれの暮らしに還元していくような。郷土芸能にはたくさんさんの魅力や役割があるけれど、人と人が関わる事が一

番の本質で大切な事なんだと改めて気付かされました。  
サンフェスは地域のお祭りとは違う「国際芸術祭」ですが、芸能ファンも担い手も、新たな発見があるかもしれません。ぜひ体験を！





# サンフェス2025 釜石プログラム



in 釜石市民文化ホール TETTO

10/4土・10/5日




と  
(アクスタ参加)



三陸の神楽舞は  
大漁旗の意匠が感じられて  
派手でかわいい





- 三陸芸能ユースミーティング
- 三陸未来芸能祭

( 芸能なんでも相談所&芸能ものがたり )

- ・小原節太
- ・小山大鼓店
- ・じぶんち etc...

- ・ハチマタ舞 & かに。
- ・外山鹿踊 etc...

ロビーでは  
三陸の歴史や  
出演芸能団体の解説  
パネル展示も!!

- 夜の神楽宿
- 東北の百姓一揆と芸能

ホールA



ギャラリー



地元の子供たちによる  
タイルアート

ホールB

1,000円以上を買って  
「漁子島」が観覧券!!

本部・物販



- 開幕虎舞
- 三陸祝祭音楽と盆踊りフェス
- 津波が醸した食と芸能

野外広場

三陸グルメのキッチンカーも!!



公演を見たあとは  
来場者も芸能体験!!

※サンフェスはメインプログラムの他にも舞台公演や芸能を習う旅など様々なプログラムが行われます!

# 芸能なんでも相談所 & 芸能ものがたり

## 郷土芸能じぶんち

出展

**① 参加方法、活動のPR**  
サンフェスでは今まで出した冊子の見本展示と、チラシを置かせていただきました。私たちは郷土芸能を応援したい！という気持ちの芸能好きの集まりです。

### ② 参加した感想

初めましての人、そうでない人、意外な人、たくさんの方々とお会いできたのがとにかく楽しかったです。話もしたい、公演も見たいであつという間の2日間でした。

### ③ 好きな郷土芸能や所属団体の紹介

じぶんちではいつでも参加者募集中です。雑談歓迎。郷土芸能に未長く幸あれ〜(フギ)



とがイラスト化した私たち  
今回のためにアクスタにしました。他のメンバーが参加できないイベントでも、もう寂しくない。



右から1-2合本、3、4号  
イベントや通販でお取り扱い中です

## 岩手大学民俗芸能サークル ばっけ

出演

**①**  
顧問の神野知恵先生からお誘いを受け、大学生が民俗芸能に関わっていくことについて皆さんとお話しできればと思います、参加しました。

私たち「ばっけ」は、岩手大学のサークルとして七つの民俗芸能に触れながら、地域の方々との関わりを持ち、民俗芸能を通じて地域のつながりの大切さや芸能の楽しさ・魅力を感じてもらえるよう活動しています。

**②**  
民俗芸能に携わる同世代の方々とお話しすることができ、それぞれに異なるきっかけや思いを持ちながら、熱意をもって民俗芸能に取り組んでいることを知り、とても感銘を受けました。

また、三陸国際芸術祭を通して本当によくさんの民俗芸能に触れることができ、その奥深さを改めて感じました。

### ③

今回参加したメンバーは「三本柳さんさ踊り」と「澤目獅子踊り」に取り組んでいます。三本柳さんさ踊りは、沈んで跳ねて躍動的な伝統さんさ踊りで、澤目獅子踊りは荘厳で勇壮な幕踊り系の獅子踊りです。また、11月9日には盛岡劇場にて、ばっけの他の演目も披露する「郷土芸能発表会」を開催します。お時間がありましたら、ぜひお越しください。





おやま

# 小山太鼓店

出展

① サンフェスに展示出店させていただきました。小山太鼓店の小山です。

自社は祭り、さんさ踊り、鹿踊り、虎舞など郷土芸能の皆様に対応したオーダー和太鼓の製造を致しております。

今回は郷土芸能の皆様と一般の方々を繋ぐアイテムとして「ダンボールで作る和太鼓」を紹介と、様々な郷土芸能の和太鼓、新プロジェクト「シカ皮太鼓」の展示参加させていただきます。

②

サンフェスでは出演者、来場者の皆様と交流を通し私もたくさん勉強させていただく事があり感謝しております。

皆様からお教えいただいた知識を生かし、皆様の表現する音の和太鼓を提供出来るよう頑張っていきたいと思っております。

③

今後ともよろしくお願いいたします。

小山太鼓店  
〒029-1202  
岩手県一関市室根町矢越  
字千刈田46-4  
TEL. 0191-64-2056  
FAX. 0191-64-2036



## 段ボール太鼓

「小さな子どもにも手軽に楽しめる太鼓を」の思いから制作された自分で組み立てる段ボール素材の太鼓。高品質で、もちろん誰でも楽しめる。

# こやた 小彌太

出展

① 染め物（半纏や鹿踊衣装）

・オリジナル商品の紹介（手ぬぐい、バッグ、Tシャツ、缶バッジ等）

・ゴムわらじの紹介

②

SNS上で繋がっている方がたくさん来場してくれて実際に会っていて、お話しする事が出来てました。郷土芸能の事になると話しが尽きなく時間が足りませんでした。

③

推しは、三本柳さんさ踊り、中野七頭舞、根反鹿踊り、北藤根鬼剣舞。



## 株式会社小彌太

【本社・工場】

〒025-0071 岩手県花巻市愛宕町3番12号

TEL 0198 (22) 3066 FAX 0198 (24) 6763

【東和工場】 東和町東晴山二区98

TEL 0198 (44) 3231 FAX 0198 (44) 3231



そとやまししおどり

# 外山鹿踊

出展

①

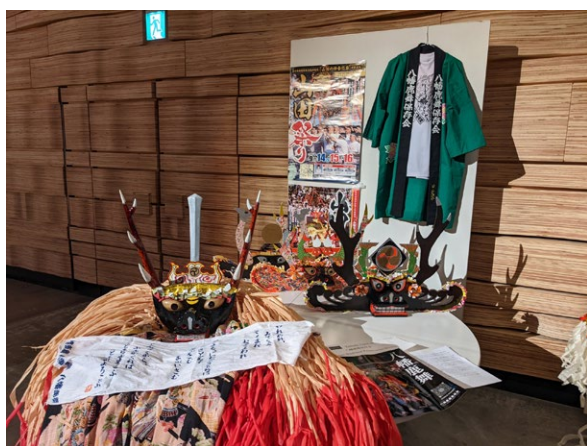
主催側から打診があり団体の露出が少ないため参加してみることにしました。

②

他の団体の演舞をみる機会もそうですが高校生達の取り組みがとても良くて応援したくなりました。  
芸能を始めている人が入りやすい環境を整えるのが大事だなと感じました。

③

外山鹿踊は昭和29年に初めて外山集落の八幡神社に奉納されたのが最初の比較的历史が浅い団体ですが雄々しい顔立ちと躍動感溢れる演舞で地元鶴住居町でも人気のある団体です。  
鶴住神社例祭は隔年開催で3年に1度くらい盛ります。その時には神の沢、田郷さんと同じく参加してお祭りを盛り上げます。  
もし外山鹿踊を観たい場合はこちらで観るのをおすすめします。



はちまんししまい

## 八幡鹿舞

（かに）

出展

出演

①

私がメインで活動している八幡鹿舞のカシラと、個人的な制作物（シシガシラ）を金石まで出張展示しました！ 外山鹿踊さんのカナガラと比較して、ウチの団体の特徴とかが見ることができたんじゃないかと！

②

芸能好きの沢山の方と交流することができ、充実した時間でした！ 同じ熱量・ベクトルの人達と芸能を見ながら芸談義をす

③

時間が幸せすぎて…!! 出るだけじゃなく、見るだけでも多くの芸能好き（お祭り好き）とざっくばらんに話をして交流できる機会は中々ないなあと思うています。ほんという人いる人全員芸能人なのが良い空間でした。

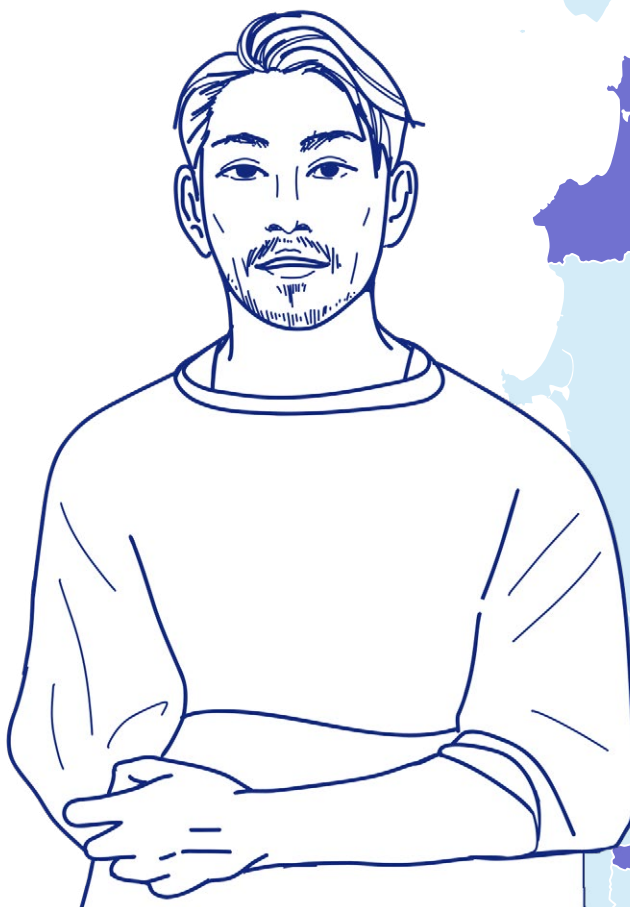
今回ご紹介した八幡鹿舞のほかに、山谷獅子踊り、山ノ内剣舞、大浦さんに参加しています！ 山谷のスス（獅子踊りの意）以外はSNSがありますので、ご確認ください！  
大槌・鶴住居の鹿子踊が大好きすぎました。（今回出てなかったけど…笑）

これから追っかけますのでたくさん出演してください！



さまざまなプログラムのある三陸国際芸術祭、通称「サンフェス」。他の郷土芸能大会や発表会なんかとは様子が違うぞ、とは感じますが、それがなんなのかはよくわからないというのが正直なところ。

今更ですが「サンフェスって何？」というお話を、初期から関わり今回も解説役で出演していた、小岩秀太郎さんに聞きました。



### 小岩秀太郎【こいわ しゅうたろう】

(公社) 全日本郷土芸能協会理事／縦糸横糸合同会社／東京鹿踊  
芸能の魅力発信や東日本大震災復興支援、コーディネートに携わる。  
地域の基層文化の魅力と価値を発掘・編集して、他分野・新分野や次代へとつなぎ、受け渡すための企画提案を国内外で行う。

## 芸術祭、前夜

東日本大震災直後からコンテンツボランティアサーたちが被災地巡りをしていたわけですよね。「体ほぐし」っていう、体を使って行うボランティア的な支援をしていた。

そのとき仮設住宅などに入ってる人たちが「自分たちの踊りも見てくれ」って言うようになって「ほぐしてもらうのはいいんだけど、コンテンツボランティアっていうのがよく分かんねえんだ」「俺たちには七福神とか虎舞とかという踊りがいっぱいあるから、まず見てみるや」という話になった。

そこで逆に芸能を見せられて「こんなスゲー人たちにわざわざコンテンツボランティアで体ほぐしますなんて、言えなくなっちゃった」っていうのが、最初のプロデューサー佐東さんの「ジャパンコンテンツボランティアネットワーク（JCDN）」。

当時、被災地の支援リンク（アートNPOリンク）があつて、たくさん情報が入ってきていた。そこに俺は「郷土芸能もありますけど」って送ったの。

そしたら今までアートNPOリンク関係の人たちは郷土芸能を見ていなかったんで、誰も対応できない。でも「お祭りとか芸能のことを知りたい」って連絡が入ったんだよね。「じゃあちよっと一回話しますか」と佐東さんと会ってやりとりするようになって。

そこにコンテンツボランティアの青年、生島くんが来ていて。彼は震災で親族を亡くされている人で、「僕は東京で生まれたんだけど、被災地のために何かやりたい」って岩手に来たんだよね。多分そのときに初めてシシオドリとか郷土芸能をちゃんと見た。

「それから芸能の人たちにもっと会いたい」みたいな話になったのが2012年ぐらい。被災地の人に会いに行つて、コンテンツボランティアサーが習ってやることってできないかという話になり、色々難しいとは思うけど浦浜だったらいかなって思っちゃったんだよね。浦浜念仏剣舞と獅子躍があつて古水さんという代表がいるところで、ホームページを持って、そこに掲示板があつた。うち（全日本郷土芸能協会）の会員だったんで「現状どうですか？」って聞いたんですよ。「まあ全部流されたけど、とりあえずなんとかいろんな人達、荒馬座（劇団）の支援とか受けて、太鼓は手に入つたし、何とかかんとかやる」という気になっていたから、つなげたのが一番最初。

浦浜はそれ以前に海外公演の経験もあつて、そのときに「面をつけて変身して踊るだけで、こんなにみんなが仲良くなれるんだね」っていうのにすごく感動したんだって。だから、国際芸能大会みたいなのがあればいいんじゃないの？ みたいなことをポロって言ったつていうのが、三陸国際芸術祭の一番最初のきっかけになる。



で、国際芸術祭という芸能を軸としたイベントをやってみるかねという話になって、2014年に大船渡の碁石<sup>ごいし</sup>海岸で、野外イベントとして始まった。

そうすると三陸の芸能はもちろん、「国際芸術祭」だから海外の芸能を呼びたい。佐東さんの最初のイメージでは、「バリのすごい芸能者たちがいて、プロではない人たちが毎日芸能をやって生活できる村」みたいな、観光だけじゃなくて民俗的にも儀礼的にも混ざり合いながらやれる三陸地域の特区みたいなのにしたいなと思うから、バリから団体を呼んで、友人の神野知恵の伝で韓国の芸能、チャンゴとか農樂を呼ぶ。

日本の団体は金津流のシシオドリ。鹿踊の大群舞を計画したけど、今までそんな経験もないし団体間の交流もほとんどないから、紆余曲折あったけど、平野幸男（金津流梁川獅子躍元庭元）っていう最長老的な人の厚意と計らいでやっと実現することになった。

夏の夕暮れ、碁石海岸の海の方に向かうなどらかな松林の中から太鼓のしらべが聞こえて、百体近くのシシがどんどん降りてくる。山の中から出てくる獣、精霊みたいなものっていうイメージで演出をした。だんだん暗くなつてきて、真っ暗な芝生の上で百鹿が供養の歌を歌ったの。

そのときはいろんなアーティストや企業の人とかが来てて、いろんなメディアで「サン

フェスがすごい」というレビューをたくさん書いたから、「郷土芸能やべー」ってなったの。

その後も「国際芸術祭」という名目で始まったから、海外の芸能の人たちも呼びたいし、地元<sup>ごき</sup>の芸能団体の人たちにもいっぱい出てほしい。

郷土芸能の団体には元々他の団体を見るっていう意識がないのが普通だったけれど、そんなところに海外の芸能が来るとか、見たことない演出をするみたいなのが持ち込まれた。

それまでの芸能祭っていうのは、演出とかもないし、ステージに出て10分15分やって終了っていうのが普通だったから、サンフェスでは出演することで何かが起きるんじゃないかっていうことを期待されるという、今までの舞台でやってたことが通用しないやり方をする必要があった。だから野外でやるとか、例えば虎舞ならはしご虎舞と釜石のが並んで踊りを見せ合うとか、一緒に出て比較しますっていうのも当初からやってた。

台本もざっくりしていて、司会が芸能の解説をアドリブで入れながら比較してみるとか、舞台ではなく野外でやったり。芸能を説明するんじゃないって、演者の人たちの声を聞く…今ある自分たちの姿を見せ合うということをやった。会ったことのない人達がお互いに語り合うのがいいんじゃないかって。演舞と各団体の比較やトークを融

合させるようになったのがサンフェスの持ち味になってきた。

出演団体は演舞の披露以上のことを聞かれちゃうから、芸能を自分ごとにしなきゃいけない。だから自分たちのことをもっと知らなきゃいけないし、知ったら人に話したくなる。若い人も出てきて、芸能をやっている人たちがそれぞれ自分たちなりの発信や交流が生まれてくるようになった。

インドネシアの芸能が来たら、その人たちと一緒に踊りを習ってみようみたいなこともやったし、コンテンポラリーダンスやヒップホップダンスとか、現代美術のアーティストみたいな人たちも参加する企画があったり、もちろん郷土芸能が軸なんだけど、保存とか保護だけを目的としたイベントじゃないから、いろんな挑戦してたの。



今ある人たちが今やれることをやったり喋ったりすればいいというスタンスを持っていた。キッチンカーを入れたりとか食文化も入れられる場所とかね。

## サンフェスの現在

三陸国際芸術祭だから、三陸文化圏としてやりたかった。

今はどうしても岩手に偏っちゃって、大船渡や宮古でやるのが多くなつてきて。気仙沼でもやったし、石巻とか仙台、南三陸にも声をかけたい気持ちはあるんだけど、そこまでマンパワーが割けないという理由で宮城の方はちょっとおいてけぼりにしちゃっているのは、今も心残り。八戸は芸能の先進



都市なんでもともとやる気満々だからずつと関わってもらってる。

2016〜7年ぐらいには、三陸の県や各市町村の担当者、いわてアートサポートセンターや、全国でホールのプロデュースとかやってた人が岩手に戻ってきたり、そういった人たちが関わるようになってきた。そんな人たちが集まって推進委員会を作って総会を開いたり。

最初はコンテンポラリーダンサーたちの「こんなものが日本にあったんだ」という感動から始まったんだけど、一過性のイベントではなく三陸地域の人たちに向けて、芸術文化をちゃんとやっていきたいと思いますという流れができた。あと事務局を三陸地域に置くっていうのはずっと目指してた。

2022年から次世代の芸能事業「未来芸能祭」に「ミーツング」をやり始めた。ユースミーツングを開催して、地域でかついい仕事や芸能に取り組んでいる先進事例を聞いて、地元で案外イケてるんじゃないか？みたいになる子たちが増えたらいいなと思った。

もう1個、今年は太鼓芸能旅という太鼓のルーツを探る旅を企画して。三本柳さん踊り（盛岡市）、鶴住居虎舞（釜石市）、白澤鹿子踊（大槌町）をお願いして、体験を受け入れてもらった。

これが俺の思いでやった3本柱で、かつ皆さんに出てもらった見本市的なの（※）は今年からやりたいと思ったこと。

※「芸能なんでも相談所&芸能ものがたり」のこと

## これからの企て

毎年、高校芸能を呼んだの。その子たちの「部活として芸能にめちゃくちゃ打ち込む」こともいいんだけど、パフォーマンスの美しさを目指す以外に、儀礼というか、民俗的な部分を高校生のうちにもっと知ってほしいなと思った。「舞台の音響と照明で、一糸乱れぬ踊りをすることを目指す」という高校芸能の人たちが地べたの芸能にどれだけ絡めるかっていうことをやりたかった。

そしたら嬉しかったのはね、岩泉高校の郷土芸能同好会の中に芸能に取り組むだけじゃなくて、何かちよつと文化的な要素も入れてやりたいっていう子が何人かいて、そこから岩手大学とかに地域興しとか地域学習をやりたいから進学する子たちが出てきたの。そういう、芸能と文化をつなげて話せるような子たちが少しずつ出てきている。

だからユースミーツングの延長で、キャンプをやるかと思ってて。二泊三日で中高生たちが集まって芸能のユースキャンプをしたいねという話。企画をさせたいの、彼らに。夏にキャンプをして、秋の芸能祭で彼ら企画のイベントをしたいと思ってる。

（インタビュー 2025年10月22日）

私も郷土芸能界で「若手」と言われ続け、かれこれ20年が経とうとしています。当時この世界に興味を持つ若い人は数えるほどで、「まだ若者には任せられない」「どうせ何もできないだろう」感がありました。若手も「ピンピンしている師匠」に任せきりで、どこか他人事でした。東日本大震災が起きた14年前、郷土芸能が国内外で注目を浴び始め、新時代を迎えたように思います。芸能を取り巻く多様な人、アイデアもどんどん出てきて、やっと活躍できるフィールドになったと、やりがいを感じるようになりました。加えて、「あの『伝統』『保存』に囚われ何もアクションしない、チャンスも与えてくれない重鎮に引導を！」という意気込み・反発心も、私たち「若手」の活動の原動力でもありました。

ところが、私たちも、郷土芸能新時代の「若者」として「ラスボス」になっていました。自分の忙しさや楽しさにかまけて、次世代とのコミュニケーションもチャンスも抱え込んでしまっていたのではないかと？

正直に言えば、そんな焦りもあって始めたのが、サンフェスでの次世代育成企画でした。ただ、こうして若手だった時代を経験し、投げ捨てず、諦めず、一緒に楽しんでくれる仲間がいて、それを細くても続けてきたことで、今企画を立てたり、予算を動かしたりできる立場にもなっているのだと思います。

新時代の人たちが、この郷土芸能に長く興味を持ち続け、あわよくば芸能に関わることで、生活が少しでも彩られる、そんな世界が来ることを夢見ています。どうぞ、私たちを上手に使ってください。

（小岩秀太郎より）